

教育委員会点検・評価報告書

（令和7年度対象）

令和8年8月

津島市教育委員会

目 次

I はじめに

1 点検及び評価の趣旨	1
2 点検及び評価の対象	2
3 点検及び評価の方法	2
(1) 点検及び評価の視点	2
(2) 学識経験者の知見の活用	2

II 教育委員会の点検・評価

1 教育委員会の活動	3
(1) 教育委員会の会議の運営に関する事	3
(2) 教育委員会の会議の公開、保護者や地域住民への情報発信	3
(3) 教育委員会と事務局との連携	3
(4) 教育委員会と市長の連携	3
(5) 学校及び教育施設に対する支援・条件整備	3
○ 担当課による評価	3
2 教育委員会が管理・執行する事務	4
(1) 教育行政の運営に関する基本方針を定める事	4
(2) 教育委員会規則及び規程を制定し、又は改廃する事	4
(3) 教育委員会の所管に属する各種委員会委員任命又は委嘱に関する事	4
(4) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案に関する事	5
(5) 津島市小中学校長会議に関する事	6
(6) 津島市立小中学校の2学期制に関する事	6
○ 担当課による評価	6
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	8
(1) 学校教育課主要事業	8
① いじめ問題対策委員会委員報酬	8
② ロボット・ブロックプログラミング教育事業	8
③ 学校施設環境整備事業	9
④ 小中学校修繕事業（主な修繕事業）	9
⑤ 地域学校協働本部事業（補助金）	9
⑥ 教育支援センター事業	10
⑦ 学校配置職員の充実	10
⑧ 学校図書館図書整備事業	10
⑨ キャリアスクールプロジェクト推進事業（職場体験）	11
⑩ 就学助成事業	11

⑪ 外国語教育の充実（外国語教育・国際交流事業）	11
⑫ 総合的な基礎体力向上事業	12
⑬ 防災教育事業	12
⑭ 「郷土愛を育む 津島の達人ジュニア検定」	12
⑮ 教職員の働き方改革	12
⑯ 給食献立コンクール事業	13
⑰ 学校給食用物資選定会の実施	13
⑱ 給食費の未収金対策	13
○ 担当課による評価	13
(2) 社会教育課主要事業	15
① 生涯学習事業	15
② 家庭教育推進事業	16
③ 青少年事業	16
④ 文化芸術奨励事業	16
⑤ 歴史文化遺産活用事業	17
⑥ 文化財の修理・保存補助事業	17
⑦ 放課後子ども教室推進事業	18
⑧ 文化財保存活用地域計画策定事業	18
⑨ 公民館事業	18
⑩ 生涯学習センター管理・運営事業	19
⑪ スポーツ大会・スポーツ教室事業	19
⑫ スポーツ協会、スポーツ少年団、 総合型地域スポーツクラブ活動補助事業	19
⑬ 東公園一帯整備基本構想策定事業	19
⑭ 錬成館高圧受変電設備改修工事事業	19
⑮ 各種団体への行政関与の見直し事業	19
⑯ 指定管理者導入施設	19
○ 担当課による評価	20
Ⅲ 学識経験者の意見	23

I はじめに

1 点検及び評価の趣旨

本報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくために、令和 7 年度の教育委員会の点検及び評価を行い、教育に関する学識経験者の意見を付して報告するものです。

結果を公表することにより、市民の皆様に教育に関する事務の管理及び執行の状況について説明するとともに、今後の施策・事業の展開等に活用し、より一層効果的な教育行政の推進を図っていきます。

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検及び評価の対象

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 21 条及び第 22 条に規定する教育委員会及び地方公共団体の長の職務権限について、令和 7 年度の部方針書に位置づけて実施した施策・事業等の実施状況を点検及び評価の対象としています。

3 点検及び評価の方法

(1) 点検及び評価の視点

教育委員会議の開催など教育委員会の活動状況を明らかにするとともに、施策・事業等については、妥当性及び有効性等の視点から実施状況を点検し、課題等を踏まえた今後の取り組みの方向性を明らかにしています。

(2) 学識経験者の知見の活用

教育委員会の活動状況や施策・事業等の実施状況についての点検及び評価の客観性を確保するとともに、今後の取り組みに向けた活用を図るため、前蟹江小学校校長の高橋央樹氏（津島市在住）、名古屋葵大学・名城大学・日本福祉大学・愛知大学 非常勤講師の三輪昭子氏の 2 名から点検及び評価に関する意見や助言をいただきました。

Ⅱ 教育委員会の点検・評価

1 教育委員会の活動

(1) 教育委員会の会議の運営に関すること

教育委員会議については、毎月1回「定例教育委員会」を開催した。

(2) 教育委員会の会議の公開、保護者や地域住民への情報発信

教育の機会均等、教育水準の維持向上及び地域の実情に応じた教育の振興が図られるようにするため、ホームページ等を利用し、開催結果を公開し、開かれた審議を進めた。

(3) 教育委員会と事務局との連携

教育委員会の招集告示は委員会の1週間前としている。会議資料の提供は、個人情報が多く含まれていることから、当日配付することとしている。

(4) 教育委員会と市長の連携

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により、平成27年度から地方公共団体の長と教育委員会で構成する総合教育会議の設置が義務付けられた。これを受け、総合教育会議を年2回開催した。また、市長部局が開催する行政経営会議、部課長連絡会議に参加した。

(5) 学校及び教育施設に対する支援・条件整備

5月定例教育委員会に学校訪問等参加計画書（前期・後期）を示し、計画訪問ができるよう調整している。

○担当課による評価

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">(1) 定例教育委員会を12回実施した。(2) 定例教育委員会の議事録をホームページに掲載し広く情報発信を行った。(3) 個人情報の取り扱いに留意し、定例教育委員会を開催した。(4) 市長と連携して、総合教育会議を開催し、「教育に関する施策の大綱」、「津島市教育振興計画」の更新等を議題として、活発な意見交換を行った。市長部局との会議により連絡、協調が図られた。今後も各小・中学校の教育活動の現状を把握し、教育の振興を図るため総合教育会議を開催する |
|---|

必要がある。

- (5) 令和7年度学校訪問は8小学校、4中学校で実施することができ、委員により学校運営状況を確認した。参観では、ICTを活用して児童生徒の興味や関心を高めたり、課題を明確に把握させたりするなど教員の指導力向上を確認することができた。

2 教育委員会が管理・執行する事務

(1) 教育行政の運営に関する基本方針を定めること

基本方針は教育委員会の部方針書に位置づけて設定している。具体的には、学校施設の管理運営、安全・安心な学校給食の提供、学習活動の拠点整備、教育組織の適正運営、生涯学習・生涯スポーツの推進、文化財等の保存・継承・活用等である。

(2) 教育委員会規則及び規程を制定し、又は改廃すること

規則の一部改正4件を原案のとおり承認した。

(3) 教育委員会の所管に属する各種委員会委員任命又は委嘱に関すること

各委員の選任について、任命2件、委員の委嘱4件を原案のとおり承認した。

(4) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案に関すること

定例教育委員会に、各議会における補正予算について報告を行った。

< 6 月補正予算 >

(補正予算なし)

< 9 月補正予算 >

・ 東公園防犯カメラ設置修繕	1,914 千円
・ 冬季オリンピック選手応援委託料	1,821 千円

< 12 月補正予算 >

・ 人件費・報酬	
教育総務費	△2,500 千円
学校教育指導費	△5,600 千円
小学校費	4,500 千円
中学校費	4,000 千円
社会教育総務費	4,500 千円
公民館費	5,300 千円
生涯学習センター費	3,600 千円
保健体育総務費	1,600 千円
・ 光熱水費 (中学校費)	3,303 千円
・ 鍊成館高压受変電設備改修工事費 (減額補正)	△37,362 千円
鍊成館高压受変電設備改修工事費 (継続費補正)	94,171 千円

< 3 月補正予算 >

・ 国際理解教育事業 (減額補正)	△366 千円
・ 自動車借上料 (減額補正)	△943 千円
・ 東小学校東館屋上等改修工事費 (減額補正)	△1,530 千円
・ 暁中学校高架水槽 (北館・南館) 改修工事費 (減額補正)	△4,325 千円
・ 神守中学校バリアフリー化改修工事関連費	28,589 千円
・ 堀田家住宅南側塀改修工事 (減額補正)	△18,920 円
・ 放課後子ども教室推進事業 (減額補正)	△1,000 千円
・ 東公園一帯整備基本構想策定委託料 (減額補正)	△3,531 千円
・ 冬季オリンピック出場者応援委託料 (減額補正)	△1,073 千円

（５）津島市小中学校長会議に関すること

津島市立小中学校の教育振興・発展を図ることを目的として、教育委員会主催で年 11 回の定例会議を開催した。

（６）津島市立小中学校の２学期制に関すること

津島市教育委員会は、行事の削減・見直しを行い、授業時間数を確保するとともに、教師が児童生徒と接する時間を増やし、学習・生活面で個々の児童生徒への支援を充実させる目的で平成 19 年度から本格的に 2 学期制を導入している。

○担当課による評価

（１）部方針書に基づく基本方針の施策目標及び方針

◎学校教育課

・特色ある教育の推進

基礎学力の向上が求められる中、子どもたちが楽しく学び、学習の意欲を高める教育が求められており、ＩＣＴ（情報通信技術）教育の強化による効率的な教育や、楽しくて役に立つプログラミング教育を進めた。

また、学校を拠点とした地域との連携・協働により、子どもを地域と一緒に育てていくため、各学校・地域において地域学校協働活動やコミュニティースクールを、学校や地域の実情や特色に応じて、創意工夫をしながら進めた。領事館との交流事業や、外国語指導助手の授業を通して、国際理解教育を推進した。

・心の教育推進

心理的・情緒的な要因により、不登校状態にある児童生徒及びその保護者を対象として、相談・助言・指導を行った。また、学びの場の提供や学校復帰を支援する教育支援センター（２か所）と校内教育支援センター（ほっとルーム）（４か所）で、きめ細かな不登校対策を展開した。

・安全・安心な教育環境の整備

学校施設の環境整備・有効活用を図るなど、必要な修繕等を計画的に行う必要があり、津島市学校施設長寿命化計画に基づき、必要な修繕及び整備を進めた。

納入業者と協力し、地産地消を実践するとともにオーガニック給食として、令和 7 年 11 月 25 日に市内全小中学校 12 校において、オーガニック

食材を使用したレンコンチップスを提供した。

◎社会教育課

・文化財等の保存・継承・活用

文化財の所有者、管理者、保存団体等に対して、文化財の保存に係る修理や無形民俗文化財の継承のための活動を支援した。また、市が所有・管理する旧堀田家住宅について、維持管理を行うとともに、年間を通じて公開した。

・歴史・文化資源を活用した魅力の発信

市民が地域の文化や歴史的遺産を地域の誇りとしてとらえ、まちに愛着を持つとともに、地域の歴史や文化を魅力として市内外に発信していくため、歴史・文化遺産ホームページの運営や歴史文化遺産を紹介する案内板の整備、公開施設である堀田家住宅で「ひなまつり展」（2～3月）を開催した。

また、令和5・6年度に行った津島秋祭（山車祭）調査をまとめた調査報告書を刊行した。

・生涯学習の推進

「生涯学習ガイド」を発行し、市民が活用しやすい学習情報を提供した。

また、市民の学習ニーズに応えるため、県内の大学から講師を招聘し、市民大学講座を開催した。

・生涯スポーツの推進

スポーツ競技大会、初心者向けのスポーツ教室、気軽に参加できるレクリエーションスポーツ等、子どもから高齢者まで参加できるさまざまな事業を開催することができた。また、スポーツ施設の整備やスポーツ団体の支援を継続的に行い、生涯スポーツの推進に努めた。令和6年度には、スポーツに関する施策や事業を体系化し、総合的に推進することを目的にスポーツ推進計画を策定するとともに、計画で位置付けした施設整備方針に基づき、東公園一帯整備基本構想策定に着手し、令和7年度に完成した。

(2)(3)(4) 教育委員会規則及び規程の制定・改廃、所管に属する各種委員会委員任命又は委嘱に関する事、定例教育委員会にて審議、承認を行った。また、3月、6月、9月、12月の定例市議会の内容を直近の定例教育委員会で報告した。

(5) 津島市小中学校長会議の主な会議内容

- ・教育長から学校経営管理に関する内容について指示を行った。
 - ・様々な教育課題に対する対応等について協議を行った。
 - ・教育委員会事務局から教育行政の情報提供を行った。
 - ・教育委員会関係の予定について伝達を行った。
 - ・市主催の事業への参加について依頼を行った。
- また、事前に教育委員会指示内容の検討を行うための役員会を開催した。

(6) 2学期制実施の効果

- ・授業や活動の時間が増え、教師は児童生徒とじっくり向き合うことができ、相互理解が深まり学校生活全般の向上が見られている。
- ・I C Tを活用した学習、外部講師の活用、体験学習や教育相談活動が充実し、基礎学力の定着や健全育成につなげることができている。
- ・各教科の達成度を評価するにあたり、長いスパンで児童生徒の学習活動を観察できるため、学習指導要領の趣旨のもと設定された3観点（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）での評価を、より適切に進めることができている。

3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

(1) 学校教育課主要事業

- ① いじめ問題対策委員会（委員報酬） 決算額 26,800 円
いじめ問題対策委員会（令和8年1月27日開催）を開催した。
- ② ロボット・ブロックプログラミング教育事業
- | | | |
|------------------|-----|----------|
| 報償費 | 決算額 | 956,000円 |
| プログラミング大会運営支援委託料 | 決算額 | 660,000円 |
- 全小中学校を対象に、A I 機能を持ったプログラミング可能な人型ロボット及びブロックを活用し、プログラミング教育を実施した。
- ・ I C T支援員設置事業（I C T支援委託料）
I C Tによる協働的な学びを実現するため、その技術や活用に見識を有するI C T支援員を市独自で配置を行い、I C Tを活用した授業等を教師がスムーズに行えるようサポートした。
- | | | |
|-----------|-----|------------|
| 市内8小学校委託料 | 決算額 | 8,448,000円 |
|-----------|-----|------------|

市内 4 中学校委託料	決算額	2,112,000円
-------------	-----	------------

③ 学校施設環境整備事業

・ 東小学校東館屋上等改修工事	決算額	17,587,900 円
・ 神島田小学校渡り廊下改修工事	決算額	10,846,000 円
・ 神島田小学校非常階段改修工事	決算額	5,104,000 円
・ L E D 器具借上料（小学校費）	決算額	7,656,000 円
・ L E D 器具借上料（中学校費）	決算額	3,828,000 円
・ 器具購入費（中学校費）	決算額	13,340,668 円
(うち木製製品充実化事業		5,879,500 円)

学校施設の維持管理のため、施設管理経費を支出した。また、東小学校東館屋上等改修工事、神島田小学校渡り廊下改修工事、神島田小学校非常階段改修工事、暁中学校高架水槽（北館・南館）改修工事を実施した。I C T 教育を推進するため、I C T 支援員を学校へ派遣した。学校設備の充実化を目的に神守中学校 6 普通教室に木製ロッカーを整備した。

④ 小中学校修繕事業（主な修繕事業）

・ 外壁剥落防止及び外壁防水修繕	決算額	5,170,000 円
・ 西校舎消火配管修繕	決算額	4,290,000 円
・ 南通用門扉修繕	決算額	4,125,000 円
・ 消防設備修繕	決算額	3,727,790 円
・ 保健室灌水浴機器修繕	決算額	2,772,000 円
・ 駐輪場フェンス修繕	決算額	2,750,000 円

児童生徒の安心・安全な学習環境の整備を実施した。

⑤ 地域学校協働本部事業（補助金）

決算額 1,620,000 円

地域の子どもは地域で育てることを基本とし、学校の求めに応じて、地域のボランティアが学校を支援する活動に参加できるしくみづくりを推進した。

- ・ 地域学校協働本部 平成 30 年度 全小中学校 設置
- ・ コミュニティスクール（学校運営協議会） 全小中学校 設置

平成 30 年度	神守中学校
令和元年度	南小学校
令和 2 年度	神守小学校・高台寺小学校・暁中学校
令和 3 年度	東小学校・神島田小学校
令和 4 年度	天王中学校・藤浪中学校

西小学校・北小学校・蛭間小学校

⑥ 教育支援センター事業

決算額 35,785,351 円

心理的・情緒的な要因により、不登校の状態にある児童生徒及びその保護者を対象として、市内2か所の教育支援センターにて適正な相談・助言及び指導を行い、学校復帰を支援し、市内4中学校すべてに校内教育支援センター（ほっとルーム）を開設した。

（指導員11人配置 令和7年度教育支援センターの利用児童生徒数24人）

また、スクールソーシャルワーカー1名を配置し、様々な問題を抱える児童生徒の問題解決のため関係機関等と連携・調整を行った。

⑦ 学校配置職員の充実

決算額 166,396,156 円

〔 小学校 111,658,008 円
中学校 54,738,148 円 〕

学校管理業務・給食業務のため、校務員及び配膳パート職員を配置した。

また、教育支援を要する児童生徒への指導を充実するため、市雇用の支援員を市内12小中学校へ配置した。

校務員 17人、配膳パート19人、学校支援員 40人 計76人

（令和7年5月1日現在）

⑧ 学校図書館図書整備事業 決算額 6,475,723 円

〔 小学校 3,618,396 円
中学校 2,857,327 円 〕

子どもたちの豊かな感性や情緒を育み、健やかな成長に資する図書を提供するため、学校図書館の蔵書数を学校図書館図書基準に見合うよう整備を進めている。

令和7年度小・中学校蔵書数（令和8年3月31日現在）

東小学校	13,112 冊
西小学校	11,305 冊
南小学校	9,787 冊
北小学校	10,128 冊
神守小学校	10,892 冊
蛭間小学校	9,307 冊
高台寺小学校	7,976 冊
神島田小学校	8,960 冊
天王中学校	12,842 冊

藤浪中学校	14,214 冊
神守中学校	15,271 冊
暁中学校	13,539 冊

⑨ キャリアスクールプロジェクト推進事業（職場体験） 決算額 125,000 円

若年層の進路意識の希薄さや勤労観の未発達が大きな社会問題となっている。その対策として、生徒が職業の魅力を感じ、望ましい勤労観や職業観を醸成できるように、職場体験学習を核とした中学校 1 年生から 3 年生までの系統的なキャリア教育のさらなる推進を図る目的で実施した。

中学校名	期 間		参加生徒数
天王中学校	11 月 26 日～11 月 28 日	3 日	90 人
藤浪中学校	11 月 13 日～11 月 14 日	2 日	92 人
神守中学校	11 月 18 日～11 月 20 日	3 日	145 人
暁 中学校	6 月 11 日～6 月 13 日	3 日	109 人

⑩ 就学助成事業

要・準要保護就学援助費 小学校分 決算額 7,894,480 円
中学校分 決算額 10,468,749 円

小中学校の児童生徒の保護者を対象に、就学が困難な方に対し、就学援助費を補助した。

令和 7 年度就学援助受給者実績

就学援助受給者（人）				児童生徒数（人） （学校基本調査 令和 7 年 5 月 1 日）			全体に対する受給率（%）		
新小学校 1 年生	小学校 (ア)	中学校 (イ)	計 (ア) + (イ)	小学校	中学校	計	小学校	中学校	計
32	274	161	435	2,383	1,345	3,728	11.5	12.0	11.7

私立高校授業料補助事業 決算額 2,580,000 円

私立高校の保護者負担の軽減をはかり、家庭環境に関わらず、誰もが学校を選べるよう私立高校授業料補助（1 人 1 万円）を実施した。

（令和 7 年度実績 258 人）

⑪ 外国語教育の充実（外国語教育・国際交流事業） 決算額 20,308,561 円

外国人指導助手（4 人）を配置し学校に派遣を行った。また、国際文化の交

流を深めていくため、県内の領事館を通じた国際交流事業を8小学校にて実施した。神島田小学校においてはオンラインにて交流した。

令和7年度

小 学 校 名	交 流 領 事 館	交 流 日
東小学校	ブラジル	令和8年02月18日(水)
西小学校	フィリピン	令和7年12月12日(金)
南小学校	大韓民国	令和7年12月17日(水)
北小学校	カナダ	令和7年11月12日(水)
神守小学校	トルコ	令和8年01月21日(水)
蛭間小学校	中華人民共和国	令和7年11月26日(水)
高台寺小学校	アメリカ合衆国	令和7年12月17日(水)
神島田小学校	ペルー	令和7年09月26日(金)

令和4年度～令和6年度 8小学校にて交流事業実施

令和3年度 蛭間小（カナダ）、高台寺小（大韓民国）にて実施

令和2年度 新型コロナウイルス感染症の影響により中止

⑫ 総合的な基礎体力向上事業

基礎体力を向上し健康な身体を維持していくための取り組み（S K I P）を市内12小中学校で実施し、教員を対象にサーキットトレーニング研修を行った。

⑬ 防災教育事業

「自分の命は自分で守る」を合言葉にし、令和7年度は神守小学校区及び神島田小学校区において地域住民の協働による総合防災訓練を実施した。希望する学校で防災講座を実施した。

各学校において、「家庭防災の日」の周知を行い、日頃から防災意識を高める取り組みを行った。

⑭ 「郷土愛を育む 津島の達人ジュニア検定、ジュニア選手権」

津島市の郷土の歴史や文化を知るため、毎年1月に市内小学6年生全員が検定を受検している。令和7年度で16回目となった。さらに学習を続けたい児童は「津島の達人ジュニア歴史選手権」に挑戦した。（2月）この検定により津島市へのシビックプライドが高まっている。

⑮ 教職員の働き方改革

自己の健康を維持し、多忙感を解消するため「定時退校日」、「目標退校時間」

の設定に続き、年度当初の時間割の見直し（小学校では 40 分 5 時限、中学校では 45 分 6 時限）、部活動の時間の短縮を実施した。（早朝部活の中止、平日の週 1 日以上の上の休止）

⑩ 給食献立コンクール事業

給食献立コンクール事業を実施した。

応募総数 小学校 390 点 中学校 247 点 合計 637 点
入賞作品 20 点を選び、その中より 2 点を給食の献立に採用した。

⑪ 学校給食用物資選定会の実施

学校給食用物資購入に際し、安全で良質な物資を安価に購入するため、毎月 1 回開催した。

令和 7 年度実績

開催数 11 回（8 月分を除く）

構成員（学校教育課長、給食調理場長、栄養教諭（学校栄養職員含む）
5 名、小・中学校給食主任 3 名（当番制）、調理員 2 名の計 12 名）

年間取引金額 272, 206, 005 円

⑫ 給食費の未収金対策

給食費の未納者に対して、催告書の送付や家庭訪問を実施して徴収に努めた。

また、平成 28 年度から令和元年度にかけての未収金について、債権放棄せず徴収活動を継続することとした。

令和 7 年度末（令和 8 年 5 月 31 日現在）未収金 6 人 612, 405 円

不納欠損処分内訳

合計 0 円（0 件）

○担当課による評価

- | |
|---|
| <p>① いじめ問題対策委員会を開催し、現状の把握に努めることが出来たが、今後各学校においてきめ細やかな対策が必要である。</p> <p>② 津島市では、令和 4 年度より 5 か年事業として津島プログラミングプロジェクト（TPP）を実施しており、全小中学校を対象に、AI 機能を持ったプログラミング可能な人型ロボット及びブロックを活用し、未来のデジタル社会を担う人材育成を図っている。令和 7 年度は全小中学校を対象とし、津島プログラミングプロジェクト大会を開催した。また、ICT 支援員を市独自で配置し、ICT 教育に関する教員へのサポートを積極的に支援した。今後について、令和 2 年度に立ち上げた情報教育研究協議会を定期的を開催す</p> |
|---|

るなどし、情報共有を図りながらその積極的な運用に努めていく必要がある。あわせて次世代を見据えたプログラミング教育を推進していくことが求められている。

- ③ 児童生徒が安全・安心に学校生活が送れるよう、東小学校東館屋上等改修工事、神島田小学校渡り廊下改修工事等を行った。次年度以降も学校施設長寿命化改修事業を計画的に実施する必要がある。
- ④ 児童の安心・安全な学習環境の施設整備を実施したが、老朽化が進んでいるため、継続的な取り組みが必要である。
- ⑤ 地域学校協働本部事業を推進し、保護者を含む地域住民が子どもの成長を支え、子どもも地域に愛着をもてるような教育環境づくりに努めた。今後については、全小中学校に設置されたコミュニティスクールを核に、地域で子どもを育てていく教育体制の構築に努めていきたい。
- ⑥ 不登校児童生徒が増加する中、教育支援センターの在り方が「学校復帰の場」から「学校以外の学びの場」へと変わってきている。タブレットを活用したり、自主学習の支援をしたりするなど、学びの場を提供することができた。また、校内教育支援センター（ほっとルーム）を4中学校で開設し、不登校状態にある生徒を指導・支援した。今後もさらにセンターと学校との連携を深め、市教育支援センターとして不登校の児童生徒にきめ細かい指導を行っていく。
- ⑦ 8小学校4中学校に校務員・配膳パート・学校支援員を配置することができた。
- ⑧ 学校図書館の図書は、各学校ほぼ100%充足されている。引き続き整備内容の充実をしていく必要がある。
- ⑨ 様々な職業に関心をもつとともに、職場体験への意欲を高めることができた。働く意義や仕事をすることの辛さなど職業に対する理解を深めるとともに、あいさつ、言葉遣い、態度など、人との接し方を振り返ることができ、社会の一員としての姿勢を学ぶことができた。
- ⑩ 就学助成事業として、経済的な理由で就学が困難な方に対し、就学援助費等を補助を実施した。また、私立高校授業料補助事業を実施することで、家庭環境に関わらず、誰もが学校を選べることについて一定の効果があつた。
- ⑪ 他国の文化に触れる機会をもつことにより、国際感覚の醸成に努めた。外国籍の児童生徒のため日本語教室を支援した。
- ⑫ 子どもたちの体力は、低下傾向にあるため、継続して取り組んでいく必要がある。
- ⑬ 防災教育の必要性は年々高まってきており、日頃から防災意識を高める取り組みを学校・家庭・地域が一体となって取り組む必要がある。

- ⑭「郷土愛を育む 津島の達人ジュニア検定」を市内小学6年生全員に実施することで、郷土愛について学ぶ機会を提供することが出来た。
- ⑮ 平日の部活動の時間の短縮化、休日の部活動の縮小、会議の在り方を見直すなど教職員の働き方改革を推進することで、ある程度の改善効果があったが、引き続き進めていく必要がある。
- ⑯「給食献立コンクール」の実施により、家庭の料理を家族と一緒に考え学校給食に生かすことで、より給食への関心が高まった。
- ⑰ 安全・安心な食材の確保ができ、おいしい学校給食の提供ができた。
- ⑱ 令和6年度比で 401,085 円の未収金減少となった。積極的な家庭訪問による徴収活動や生活状況等に応じた効果的な折衝などにより一定の徴収実績を達成することができた。引き続き催告書等の文書送付や家庭訪問等を行い、未収金額の減少に取り組んでいく必要がある。

(2) 社会教育課主要事業

① 生涯学習事業

決算額 329,000 円

市民が活用しやすい生涯学習情報誌『生涯学習ガイド』を発行し、市の施設等に常置するとともに、ホームページに掲載した。

また、過去の受講者アンケートの回答をふまえ、大学等から講師を招いて、市民の学習意欲に応えるために市民大学講座を開講した。

テーマ	日時		場所	参加者
近世の庶民文化 浮世絵と版本	6月21日(土)	午後2時～	児童 科学館	15人
	6月28日(土)	午後3時45分		16人

テーマ	日時		場所	参加者
駅弁から考える 戦争と平和	8月2日(土)	午前10時～ 午前11時45分	児童 科学館	12人

テーマ	日時		場所	参加者
豊臣秀長の活動と 豊臣政権	11月1日(土)	午前10時～	児童 科学館	17人
	11月15日(土)	午前11時45分		17人

テーマ	日時		場所	参加者
日本の伝統的酒造 りとお酒の話	2月14日(土)	午前10時～	児童 科学館	15人
	2月28日(土)	午前11時45分		14人

② 家庭教育推進事業

決算額 31,958 円

令和7年度から重点地区に指定した北小学校区において、学校、家庭、地域の連携により、親子や子どもの異学年、また、世代間の交流を深める事業を実施した。

テーマ	日時		会場	受講者数
こども安全教室	5月21日(水)	午前9時45分～ 午前10時30分	北小学校	66人
ふれあいプール清掃	6月5日(木)	午前8時50分～ 午前10時30分		81人
ペップトーク研修会	6月10日(火)	午前10時00分～ 正午		27人
クリーン大作戦	10月8日(水)	午前8時50分～ 午前9時35分		202人
子どもたちが安心して学校生活をおくるために	12月22日(月)	午前2時30分～ 午後4時30分		16人

③ 青少年事業

決算額 993,932 円

関係機関と連携を図りながら青少年健全育成活動を実施した。

7月に愛知県青少年育成県民会議が主唱する青少年の非行・被害防止に取り組む県民運動の街頭啓発活動を、第75回社会を明るくする運動（主催：津島保護区保護司会、共催：津島市更正保護女性会）と合同で実施した。

様々な社会体験や自然体験活動を通して青少年の豊かな心を育むため、青少年活動を支援する団体、高等学校のクラブ等の協力で「つしまおやこワクワク体験活動フェスティバル！」を2月7日(土)に津島市文化会館大ホールにおいて開催し、13の出展団体、278名の参加があった。また、会場で「家庭の日県民運動」として啓発活動を行った。

20歳を対象に大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ます機会として、「はたちの集い」を1月11日(日)に開催し、令和7年度に20歳を迎えた459人が参加した。

④ 文化芸術奨励事業

決算額 1,786,647 円

市内で活動する文化団体の相互交流と日ごろの活動の成果を発表する機会を設け、各自の芸能・技芸の向上や市民への芸術文化の普及のため、10月26日(日)に芸能交流会を開催し、11団体145人が発表を行い、351人の来場者があった。

また、芸術活動の成果発表の場を設け、芸術文化の普及・振興を図るとと

もに、市民が芸術活動に関心を持つきっかけとなることを目的に、10月31日(金)～11月3日(月・祝)に文化祭美術展を開催し、80人147点の出品があった。同時開催した郷土の芸術家展では真野広氏14点、松下芝堂氏10点に加え、生誕150年を迎えた野口米次郎氏の作品15点(書籍を含む)を展示した。

⑤ 歴史文化遺産活用事業

決算額 14,469,386 円

市民が地域の文化や歴史的遺産に関心を持ち、地域の誇りとして保護・継承するとともに、新しい地域文化創造へと発展させるため、歴史・文化遺産ホームページ(津島市デジタル博物館)や案内板での文化財・歴史文化遺産の紹介、堀田家住宅の公開等を行った。堀田家住宅観覧者数の令和7年度実績は1,620人。企画展として「ひなまつり展」(2～3月)を開催した。

氷室作太夫家住居の現状や課題を把握し、保存活用に必要な事項を取りまとめるため、現地調査など策定業務を委託するとともに、氷室作太夫家住居保存活用計画策定協議会を開催し、氷室作太夫家住居保存活用計画案をとりまとめた。

令和5・6年度に実施した津島秋祭(山車祭)調査事業をとりまとめた調査報告書を刊行した。

歴史文化学習事業として、小学校4年生から6年生までを対象に、尾張津島天王祭について学習する「祭りを学ぶ」を愛西市教育委員会との共催で実施した。

・「祭りを学ぶ」実施状況

日にち	実施内容	受講者数
6月21日(土)	クイズで学ぶ尾張津島天王祭、車楽舟(だんじりぶね)パズル	16人
6月28日(土)	車楽舟の用具を見学しよう、大きな絵で見る江戸時代の天王祭、鉾持ち体験	26人
7月27日(日)	尾張津島天王祭朝祭の見学	30人

⑥ 文化財の修理・保存補助事業

決算額 7,742,000 円

文化財の所有者、管理者、保存団体等に対する助言、文化財保存のための計画的な修理及び無形民俗文化財の保存活動を支援した。

(1) 文化財保存事業費補助

- ・尾張津島天王祭協賛会(筏場車屋形)
- ・宗教法人蓮光寺(絹本著色二河白道図)
- ・津島山車保存会(神守中町正面水引幕復元修理等)

- ・津島石採祭車保存会（中部石採祭車各種提灯張替え等）
 - ・中一色町西之切（神楽彫物等）
 - ・中一色町市場之切（神楽彫物等）
- (2) 尾張津島天王祭車楽舟行事保存事業費補助
- (3) 無形民俗文化財保存事業費補助
(津島山車保存会、津島石採祭車保存会)
- (4) 重要文化財管理事業補助（津島神社本殿・楼門）

⑦ 放課後子ども教室推進事業 決算額 18,600,458 円

学校の余裕教室等を活用して、放課後における子どもの安全かつ安心な活動の場を確保し、地域の住民の参画を得ながら、さまざまな体験、交流、学習等の活動の機会を提供した。

タブレット及びプログラミング学習キットを活用し、プログラミング教室を実施した。また、各種団体と連携したスポーツ体験など、様々なプログラムを実施した。

実施校	実施曜日	実施時間	活動場所	定員	参加者数
東小学校	月 火 水 木	午後 3 時 (授業終了後)	旧普通教室 (2 室)	60人	41 人
西小学校	火 水 木 金		旧理科室	32人	32 人
南小学校	月 火 水 木		南棟 1 階 西側	28人	28 人
北小学校	月 火 水 金		1 階西側	30人	19 人
神守小学校	月 火 水 木	午後 5 時	旧図工室	40人	40 人
蛭間小学校	月 火 水 木		視聴覚室	35人	35 人
高台寺小学校	火 水 木 金		生活科室	35人	35 人
神島田小学校	火 水 金		体育館内 旧会議室	21人	21 人

⑧ 文化財保存活用地域計画策定事業 決算額 3,188,560 円

津島市文化財保存活用地域計画策定のために、策定支援業務を委託するとともに、文化財保存活用地域計画策定協議会等を開催した。

⑨ 公民館事業（神島田公民館） 決算額 3,483,309 円

19 講座を開催し、延べ 1,053 人が受講した。その中で、「スマホ教室」や『女性のための「健康づくり応援」講座』、「からだのなかから元気にいきいき血管講座」等民間企業との連携事業を進める事ができた。公民館クラブ・同好会は、4 団体延べ 1,371 人の利用となった。

また、官公署が主催する講座等の利用者数は延べ 688 人で、年間の利用者数は、合計で 3,870 人であった。

- ⑩ 生涯学習センター管理・運営事業 決算額 99,935,111 円
利用者が安全に利用することができるよう老朽化した高圧受変電設備の改修工事を行った。誰もが気軽に利用し、生涯学習・スポーツ等に親しむことができる施設として、利用者の目線に立った、利用しやすく親しまれる施設づくりを進めた。年間で屋外施設は延べ 23,422 人、屋内施設は延べ 39,212 人が利用した。また、生涯学習講座 3 講座を開催し、延べ 37 人が受講した。
- ⑪ スポーツ大会・スポーツ教室事業 決算額 4,982,400 円
さまざまなスポーツ大会や教室を開催したほか、令和 7 年度で 4 回目となる、市出身のプロランナー・神野大地選手をコーチに招き、市民を対象としたランニングクリニックを開催した。親子 23 組 46 人、中学生以上 26 人が参加した。
- ⑫ スポーツ協会、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ活動補助事業 決算額 10,008,553 円
各団体の活動に補助金を支出し、幅広い世代のスポーツ振興と普及、心身の健全育成、健康づくりに寄与した。
- ⑬ 東公園一帯整備基本構想策定事業 決算額 12,565,800 円
スポーツ推進計画に包含されているスポーツ施設整備方針を踏まえ、令和 6 年度に東公園一帯のスポーツ施設整備を検討していくための基本構想策定に着手、令和 7 年度に東公園一帯整備基本構想が完成した。
- ⑭ 錬成館高圧受変電設備改修工事事業 決算額 18,200,000 円
施設の長寿命化のため、錬成館の高圧受変電設備改修工事に着手し、令和 8 年度に工事が完了する予定。
- ⑮ 各種団体への行政関与の見直し事業
スポーツ協会は、平成 25 年度から生涯学習センター内に事務局を移設し自主運営を行っている。他の団体についても、それぞれ行政の関わりについて見直しを継続する。
- ⑯ 指定管理者導入施設 決算額 176,770,000 円
適正な管理運営及び施設利用者に対して満足度の高いサービスを提供するため、各施設等でモニタリングを実施した。

(ア) 津島市立図書館

貸出者数(63,547人)は前年度より2,187人減、蔵書冊数については令和7年度末で318,111冊(6,741冊増)、市内図書利用カード登録者数は31,231人であった。また、子どもの読解力向上事業の一環として導入した電子図書館の令和7年度末の電子図書数は2,132タイトル、令和7年度中の貸出回数は1,817回、閲覧回数は4,955回であった。

(イ) 親愛集会所・永楽集会所

町内会等地縁の団体を管理者に選定し、地域住民の生涯学習、交流の場として地域の実情に即した管理運営を行った。

(ウ) 教育・体育施設及び都市公園

(錬成館、児童科学館、総合プール、市営球場、市営庭球場、葉苅スポーツの家、東公園)

健康づくりや体力づくり、生涯学習や市民の憩いの場として、安心安全な管理運営を行い、施設全体で年間約14万人以上に利用された。

○担当課による評価

- ① 「生涯学習ガイド」を発行し、市民が活用しやすい学習情報を提供した。
また、大学と連携して企画・実施した市民大学講座については、市民ニーズにあった内容で実施することにより、受講者増加に努める必要がある。
- ② 北小学校区の家庭教育推進協議会の取り組みにより、学校・家庭・地域が協力・連携して「地域全体で子どもを育て・育む」意識の醸成を図る事業を実施することができた。
- ③ 愛知県青少年育成県民会議と連携し、関係機関や団体の協力を得て啓発活動を実施した。また、各団体や高等学校の協力を得て「つしまおやこワクワク体験活動フェスティバル！」を開催し、青少年の体験活動の場を提供したほか、20歳を迎えた青年を祝い励ます「はたちの集い」を開催することができた。
- ④ 文化祭美術展を開催し、日ごろの芸術・創作活動の発表の場を提供することができた。郷土の芸術家展では、真野広氏、松下芝堂氏に加え、生誕150年を迎えた野口米次郎氏の作品を展示し、本市ゆかりの芸術家の啓発を図ることができた。
- ⑤ 堀田家住宅の公開と企画展、歴史・文化遺産ホームページの運営を通し、市内外に文化財や歴史文化遺産を紹介することができた。また、歴史文化学習事業「祭りを学ぶ」を開催し、尾張津島天王祭を学ぶ機会を通して、こどもたちが郷土への誇りや愛着を育む場を提供することができた。さらに、氷室作太夫家住居保存活用計画策定案を取りまとめ、氷室作太夫家住居の保存活用に

必要な事項を明確にすることができた。文化財の保存・継承のためには、引き続き文化財の調査・保護・普及に努める必要がある。

- ⑥ 文化財の所有者、管理者、保存団体等に対して、助言や修理・保存に必要な費用の補助を行うことにより、文化財を保存するための計画的な修理及び無形文化財の保存活動を支援することができた。引き続き、適切な支援を行っていく必要がある。
- ⑦ 子どもの多様な学びの一つとして、タブレット及びプログラミング学習キットを活用し、子どもの ICT 活用能力の活性化を図った。今後も子どもの安全から安心な活動の場を確保し、子どもの学びや活動の場として持続していく必要がある。
- ⑧ 令和 9 年度の文化庁認定を目指し、文化財保存活用地域計画の策定のための調査・計画作成を進める必要がある。
- ⑨ 公民館教室・講座は新しく 2 講座増やしたこともあり、参加者は昨年比べて増加したが、リピーターが多いことが例年の課題である。
- ⑩ 生涯学習センターについては、誰もが快適に利用できるよう、老朽箇所の修繕等の施設整備を引き続き行っていく必要がある。
- ⑪ 日ごろの練習の成果を発揮する場や、選手同士の交流の場を創出することができた。また令和 7 年度で 4 回目となる、地元出身のプロランナー神野大地選手をコーチとして招きランニングクリニックを開催した。現役のトップアスリートから直接指導が受けられる貴重な機会を提供することで、市民のランニング愛好者を増やし、健康づくりに寄与することができた。
- ⑫ 各スポーツ団体の活動を通じ、さまざまな世代の方々にスポーツ活動の機会を提供した。今後も市民の健康保持・増進のための支援を継続する。総合型地域スポーツクラブでは次世代の人材育成や活動場所の安定した確保等が課題となっており、関係者と課題を共有し連携を密にしていく。
- ⑬ スポーツ推進計画に包含されている施設整備方針を踏まえ、東公園一帯整備を進めるため、令和 6 年度に東公園一帯整備基本構想策定協議会を立ち上げ令和 7 年 2 月から令和 8 年 1 月までに計 5 回の協議会を開催し、東公園一帯整備基本構想を策定した。今後、東公園一帯整備基本構想に基づき、令和 8 年度から 2 年間で東公園一帯整備基本計画を策定していく。基本計画では、整備方針及び計画、整備スケジュール、整備及び管理運営手法、概算費用の算出、民間活力導入可能性調査等を進めていく。
- ⑭ 錬成館の高圧受変電設備について、設置から相当な年数が経過しているため、今後の安全な施設利用を見据え、改修工事に着手し、令和 8 年度に完了する予定。
- ⑮ スポーツ協会のさらなる自立した運営を目指す。またスポーツ少年団、総

合型地域スポーツクラブについても同様に自立した運営を目指していく。

- ⑩ 図書館、スポーツ施設、集会所等の指定管理業務のチェックリストを作成し、モニタリングを実施するとともに定期的な打ち合わせ・情報交換を実施することにより市民満足度の向上に努めた。

Ⅲ 学識経験者の意見

教育委員会の活動状況や施策・事業等の実施状況についての点検及び評価の客観性を確保するとともに、今後の取り組みに向けた活用を図るため、前蟹江小学校校長の高橋央樹氏、名古屋葵大学・名城大学・日本福祉大学・愛知大学 非常勤講師の三輪昭子氏の2名から点検及び評価に関する意見や助言をいただきました。

前蟹江小学校校長 高橋央樹氏

・津島市が全国に先駆けて取り組んできた津島プログラミングプロジェクト（T P P）は、その意義や重要性が急速に高まっている。全小中学校で行われているA I機能を持ったプログラミング可能な人型ロボットとブロックを活用した授業や津島プログラミングプロジェクト大会は、子どもたちのコミュニケーション能力や論理的な思考力、自ら課題解決に向かう力の育成に大きく役立つとともに、A I活用能力の向上やリテラシーの醸成につながる大変有意義な取り組みである。令和8年度が5か年事業の最終年とのことだが、今後A Iの活用が加速度的に進んでいく社会の中で、これまでの成果を生かしてこれからも先進的な取組を続け“I C Tに強い津島の子”を育ててほしい。

・児童生徒のプログラミング教育への興味・関心をより高めるとともにスキルアップ、リテラシーの醸成を一層推進していくためには、機器の整備といったハード面の充実だけでなく、すでに行っている市独自のI C T支援員配置や教員間でのタブレット利活用研究会の活動促進などのソフト面の継続・拡充が必要不可欠である。今後もこうした事業を継続していくよう強くお願いしたい。

・児童生徒が安全に安心して学校生活を送れるよう学校施設長寿寿命化工事が計画的に進められている。老朽化が進んでいる施設が多くあることに加えて財政面にも制限があることは承知しているが、昨今の劇的に急変する気象状況への対応、なかでも夏場の猛暑・酷暑への対応について、屋内運動場への空調設備導入も検討する必要がある。児童生徒の安全確保だけでなく、災害時の避難場所としての機能面からも導入を計画的に進めてほしい。

・先進的なすばらしい取組である地域学校協働本部の取組は、学校と地域の連携強化の基盤となっておりとともに児童生徒の生活や学習を支える拠点として大きな成果を上げている。それに加えて全小中学校に設置されているコミュニティスクールを中心として、学校と地域との連携が一層深まって「地域の子どもを地域で育てる」機運が醸成されていくことを期待している。

・市教育支援センターを中心にすべての中学校に校内教育支援センター（ほっとルーム）が設置され、指導員やスクールソーシャルワーカーも配置されて、連携を取りながら不登校児童生徒の支援を行うことによって大きな効果を挙げ

ている。その一方で担当課の指摘の通り、教育支援センターの役割は今後「学校以外の学びの場」へと重心を移していく必要があり、そのためにソフト面、ハード面での整備も進めていくことが大切である。この点においてもぜひ対応を進めていただきたい。

- ・教員の働き方改革の一環で部活動の時間短縮を図ってきたことは大いに評価できる。部活動については地域展開の方向性が示されているが、人材面や財政面で多くの課題があり一気に進展させることは難しい。長期的な視点に立ってスポーツ協会、総合型地域スポーツクラブの活性化とも連動させて地域人材の発掘と育成を行い、津島で育ち津島の子どもの指導を担ってもらえる人材育成を進めていけるとよい。

- ・全国に誇れるすばらしい伝統文化である尾張津島天王祭や尾張津島秋まつりは、地域のつながりや郷土愛・郷土への誇りを育み、地域の文化を保存・継承させていくとても重要な機会である。歴史ある津島の街に残るこうした祭りや貴重な文化遺産を全国や世界に紹介するとともに、関係諸機関・団体と連携して「津島の達人ジュニア検定、ジュニア選手権」をはじめ郷土愛を育む活動や歴史文化遺産活用事業、文化財の修理・保存補助事業を一層充実させてほしい。

- ・市民大学講座は、大河ドラマで話題の人物を採り上げるなど興味・関心を引きそうな魅力的でタイムリーなテーマで開催されている。「生涯学習ガイド」やホームページへの掲載によって周知されているが、内容が面白いものであるだけにクローバーテレビや名古屋鉄道・津島駅と連携するなどしてより地域住民の目に触れやすい広報活動を行うと参加者が増えるのではないかと思う。

- ・ランニングクリニックは、地元出身のトップアスリートから直接指導が受けられる貴重な機会で多くの市民が参加している。今後もぜひ継続してほしい。また、令和8年は愛知・名古屋アジア競技大会、アジアパラ競技大会が開催される年であり、市民のスポーツへの関心は高まっている。この機会をとらえて、生涯スポーツの振興につなげる取り組みができるとよい。

名古屋葵大学・名城大学・日本福祉大学・愛知大学 非常勤講師 三輪昭子氏

・例年のことにはなるが、これまでの働き方の振り返りをしつつ限られた時間の中で諸活動実施に評価活動に真摯に向き合っておられる教職員、及び事務職員の方々に、未来を拓く教育活動に向き合われているすべての方々に感謝する。それと同時に 2024 年ぐらいから社会を揺るがす教員としての資質が問題となる反倫理的な行動がメディアに取り上げられる現代、当市でも類似の事件が発覚した。教育現場にこそ子どもたちの人権が守られ、子どもたちが安心安全に学ぶ環境が与えられなければならないのであるが、それが果たされなかった現実を知り失望感を抱いた。今一度、教員研修等で広く人権について、あるいは子どもの権利条約について学ぶ機会が必要ではないかと考えた。

・学校教育の現場において「こころの教育推進」が必要とされ、対象となる児童生徒及び保護者を対象に相談・助言・指導を行なわれている。きめ細かな対応をしておられると思うが、評価の部分で、どのような相談事が多いのかについての項目を紹介いただけると、現代の子どもたちの何が課題になっているのかを、教職員及び保護者の方々と方向性と課題、方針が共有できるのに加え、実施したという部分だけでなく、その成果の見える化も果たすことができるのではないのでしょうか。

・安心・安全な教育環境の整備において、学校施設のハード面は施設長寿命化が歴史ある建造物だけでなく身近な建物においても上手に施設を使い、補正していく必要とその精神に教育的要素が含まれていることを自覚し、児童生徒にも伝わる教材になる可能性を検討し、取り入れる教育プランがあると学校の中での教育活動を総合的にとらえる眼が養われると考える。それはもう一つ触れられている地産地消、オーガニック給食についても言える。実施した、提供したという活動の背景にあるものは学校という学び舎の中で児童生徒及び教職員、事務職員が、教科書や参考書で学ぶ以上の教材に発展する可能性がある。教職員には働き方改革にあるように時間の使い方を再検討する必要性はあるが、市の教育プランとして目立つものの方が注目度が高く、関心度が高くなる傾向がある。しかしながら、日常生活には様々なもの、人によって成り立っていることに気づくことのできる場面がその先のキャリア教育につながっていくので、取り入れる場面を検討されたい。

・様々な職業に関心をもてるような教育活動の前提として、様々な職業が存在することを知る機会がないと、「働く」という段階まで考えることはできにくい。大学生ですら知らない職業は多くある。それは知る機会がないからである。職業は時代とともに必要とされるものが変化していくので、社会経済の変化とともに変動する職業の在りかたを学ぶ場面を作る必要がある。保護者の時代では知りえなかった様々な職業があるので、それを学ぶ必要がある。AI が注目され

始めた頃、その存在が理由でなくなる可能性の高い職種がリストアップされ、将来の職業選択を再検討しなければという想いを強くした方もおられるだろう。職業選択を検討できるような教材や指導方法を用意する時代になっているのではないだろうか。

- ・生涯学習事業を拝見すると、どれも興味関心を抱きそうな内容のものが並んでいる。講座設定に関して、受講者アンケート回答をふまえとあるが、どんなアンケートなのか「～を問うような」アンケートとあると、講座開設、講師依頼に関しての工夫が分かると思うので、書き込んでいただきたい。さらに参加者数が表に入れてあるが、これは募集した人数のうちの何人なのかを知る機会があると、受講希望者の関心度を確認できるように思われる。

- ・近年、公民館事業は困難を抱える傾向にあると聞いたことがある。自治体によっては公民館という名称を止めて、名称を変えることで旧さを払拭したり、役割を変えながら、市民、住民が使い勝手の良い形に変えていく手段を取ったところもあると聴く。